

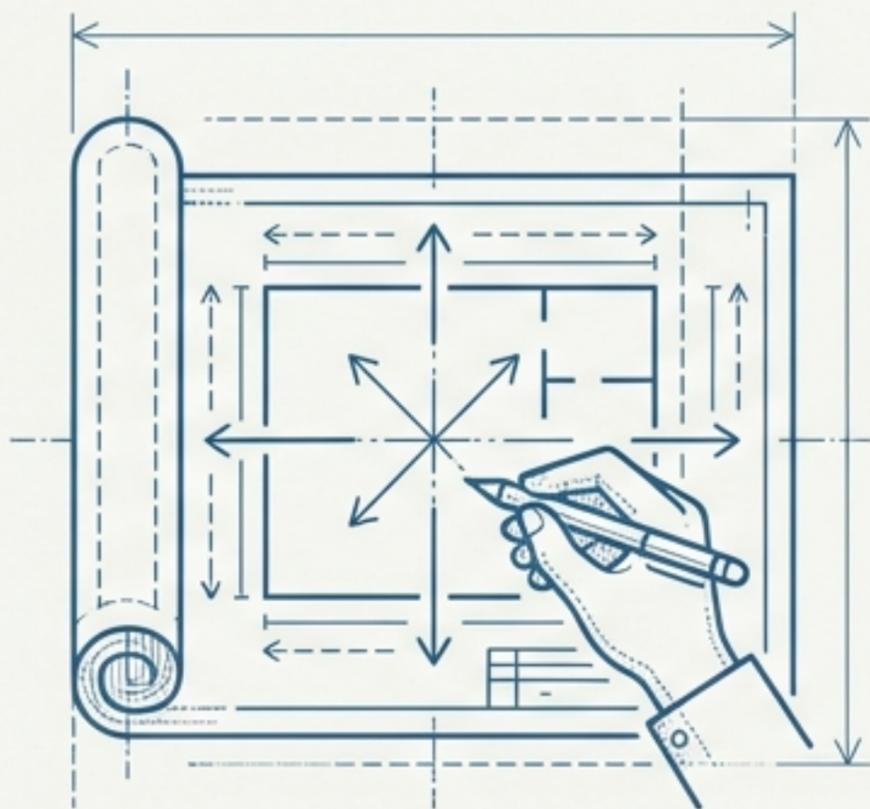
プロジェクト別原価計算の実施：直接人件費と間接人件費

第3章 3-2-7：正確な労務費配賦のための構造的アプローチ

出典：プロジェクト原価計算基準

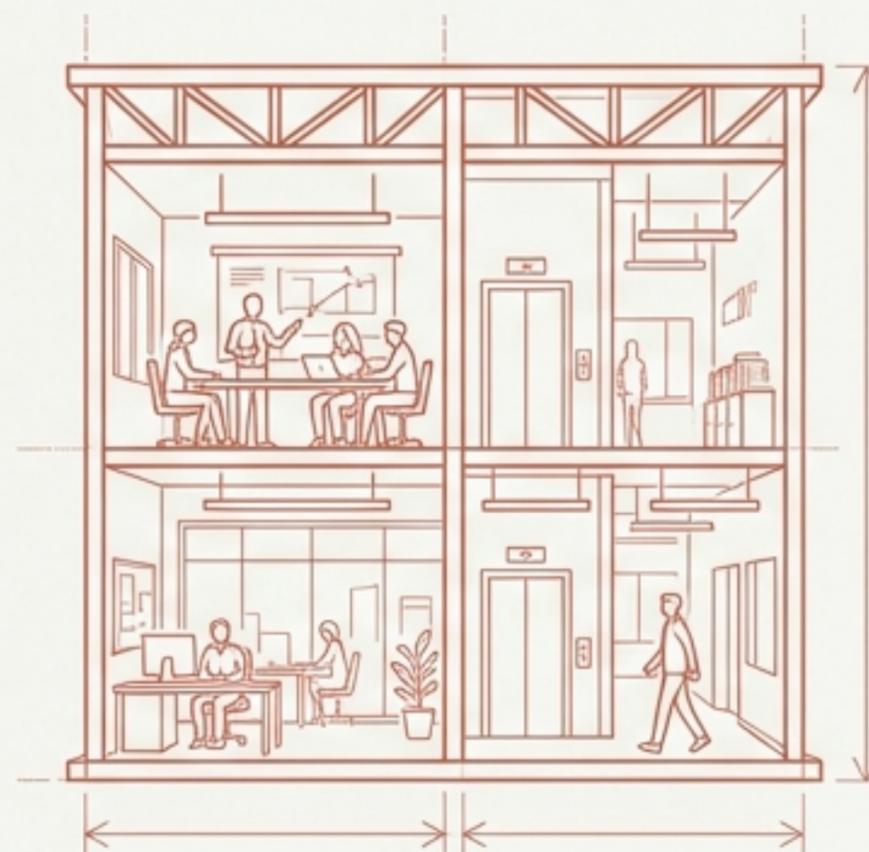
出典：プロジェクト原価計算基準

直接人件費 (Direct Labor Cost)



特定のプロジェクトに直接関わらせて把握できる人件費。

間接人件費 (Indirect Labor Cost)



特定のプロジェクトに直課されず、プロジェクト従事者が所属する部門の部門個別費、または部門共通費となる費用。



直接従事時間



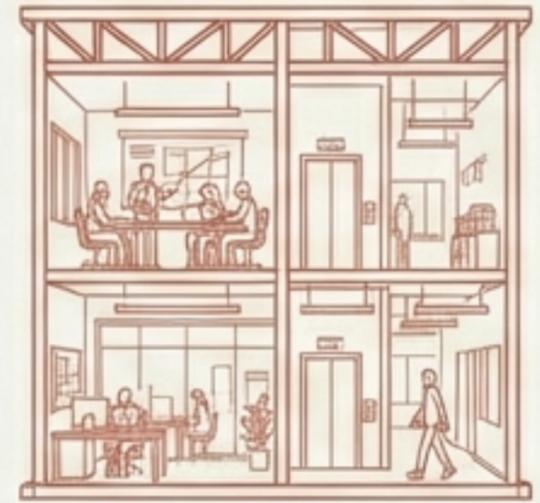
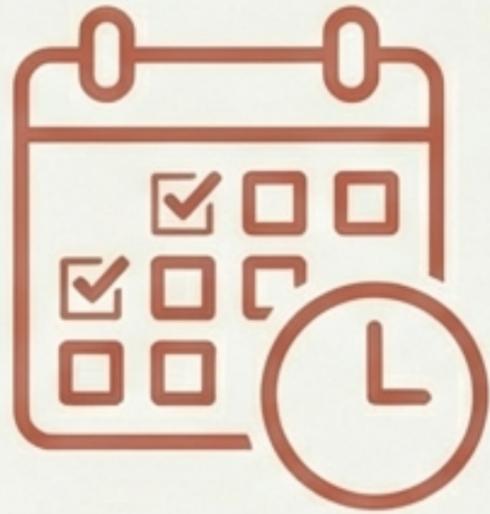
賃率



直接人件費

各プロジェクトへの従事時間を記録する
(例：Aプロジェクト、Bプロジェクト)。

1時間当たりの人件費 (時間単価)。



間接従事時間



賃率

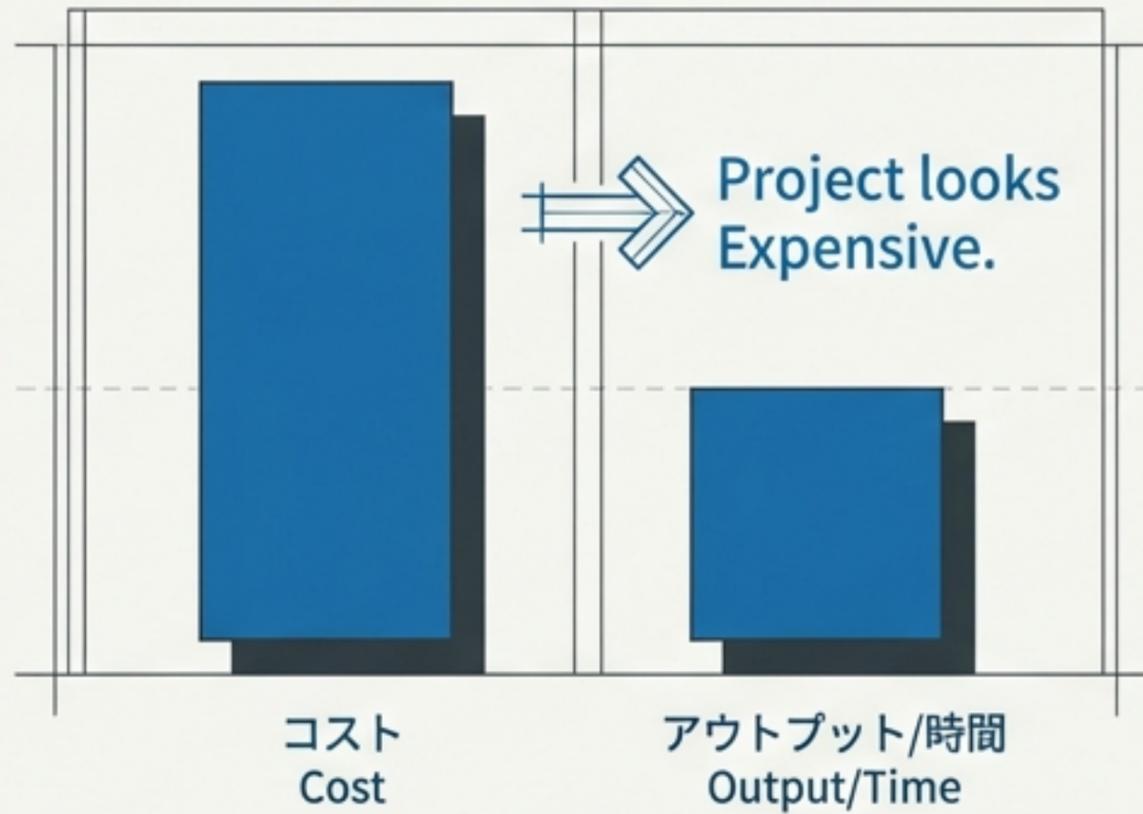


間接人件費

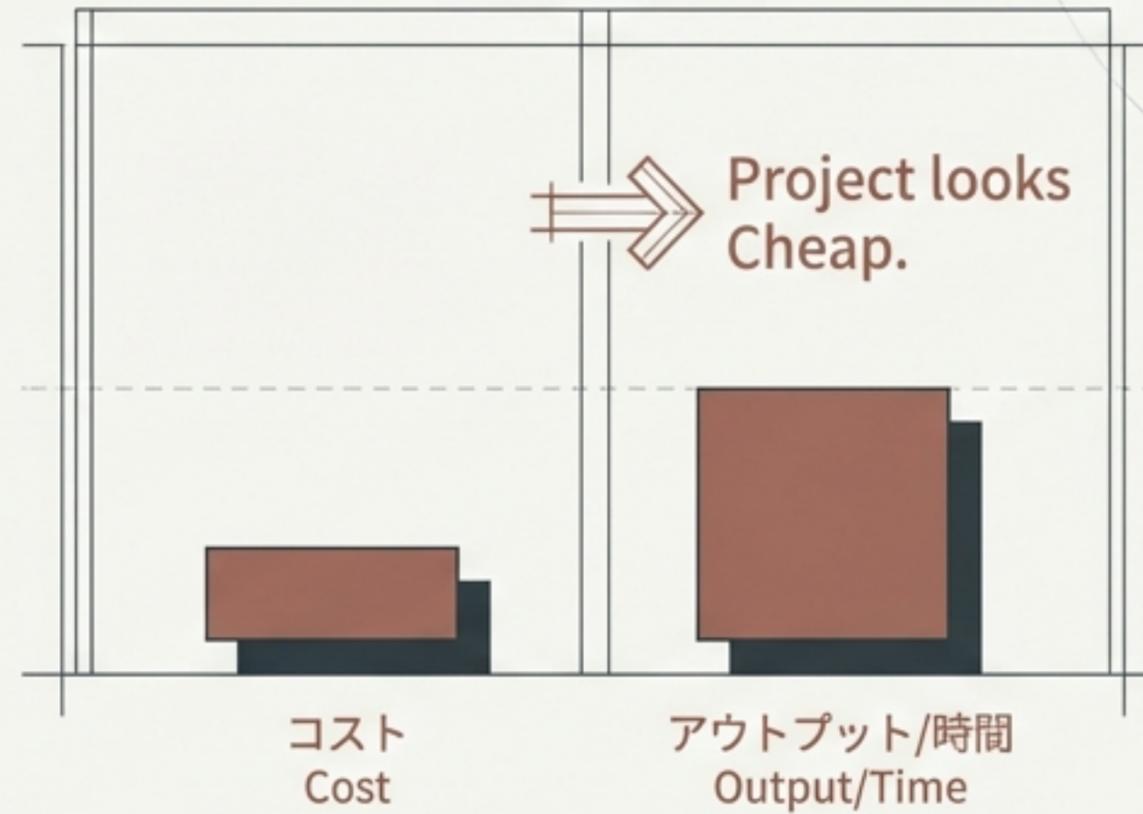
Key Insight: 重要：算出された額は、一度「部門費」としてプールされ、直接プロジェクトにはチャージされません。

課題：個別の時間単価か、平均の時間単価か？

ベテラン (Veteran)



新人 (Rookie)



個別の時間単価：システムに費用をかけられない場合等は有効だが、デメリットがある。

デメリット：単価の高い従事者（ベテラン）が行った業務も、単価の低い従事者（新人）が行った業務も、同じ工数（時間）であれば、同じ原価になってしまう。

これでは、プロジェクト従事者の能力差によるコストのブレが生じ、正しい評価が難しくなる。

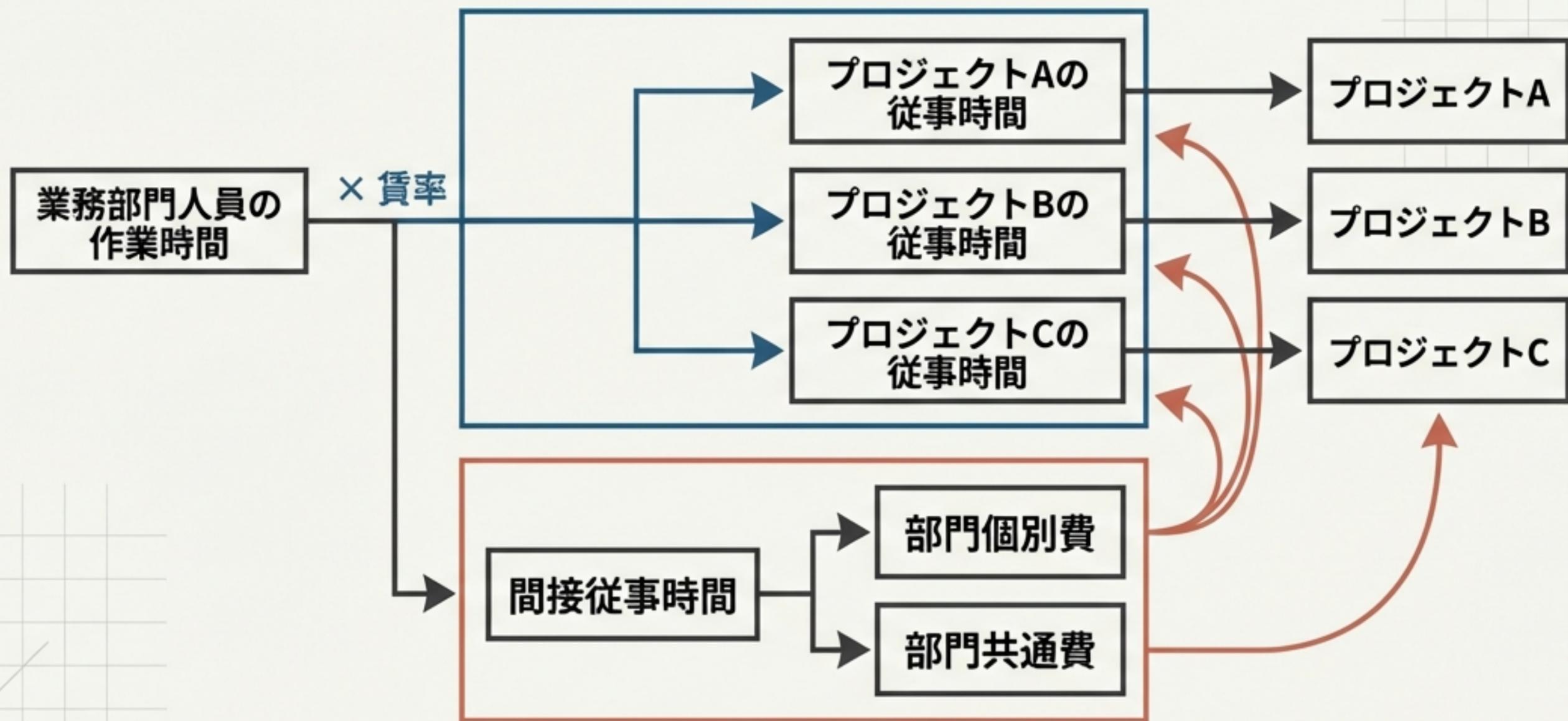
推奨：平均時間単価（標準単価）の活用



能力差による原価への影響を排除するために、
職級ごとの人員の平均時間単価を使用することを検討すべきです。

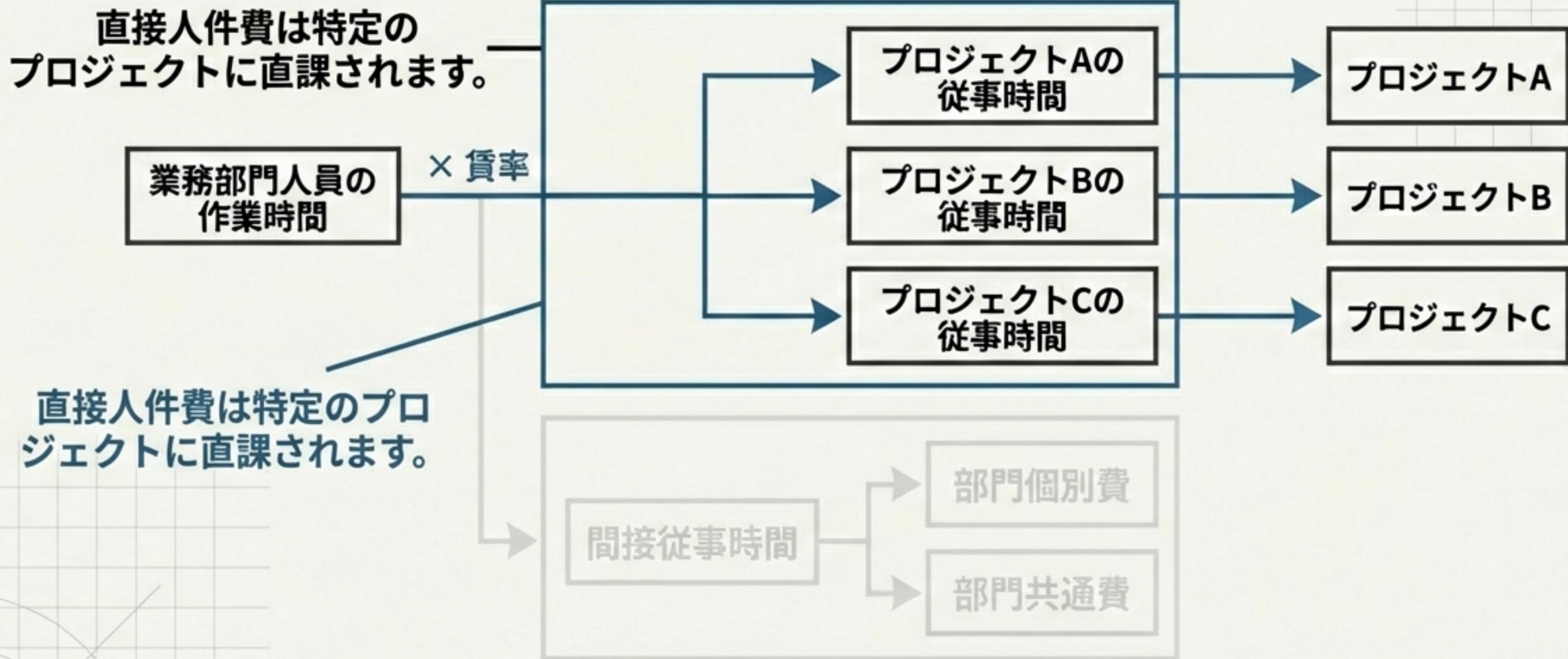
- 誰が作業してもコスト計算が均一化される。
- 純粋な「時間効率」の管理が可能になる。

直接人件費・間接人件費の把握



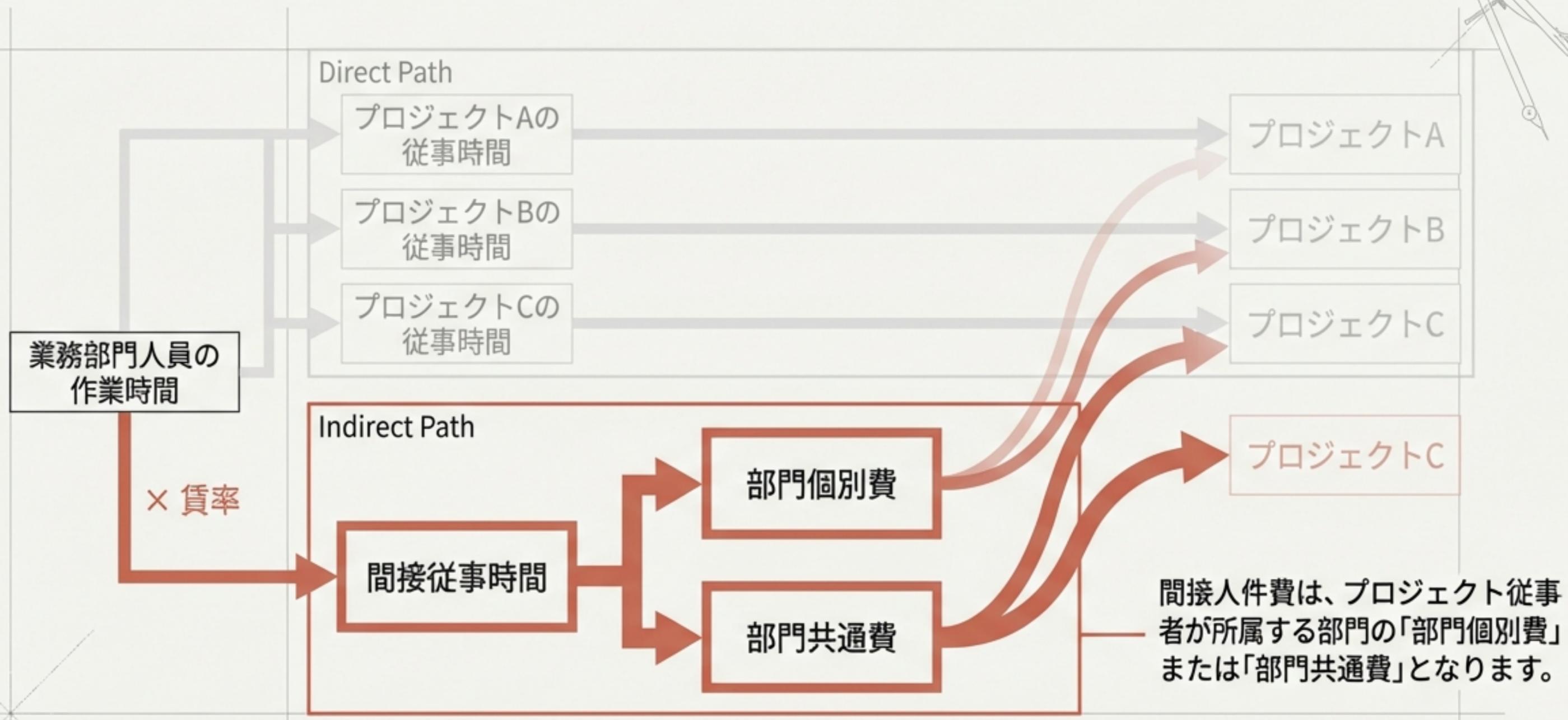
図表34：直接人件費・間接人件費と部門個別費・部門共通費のプロジェクトへの直課・配賦の関係

フロー詳細：直接人件費の直課



図表34：直接人件費・間接人件費と部門個別費・部門共通費のプロジェクトへの直課・配賦の関係

フロー詳細：間接人件費の計上

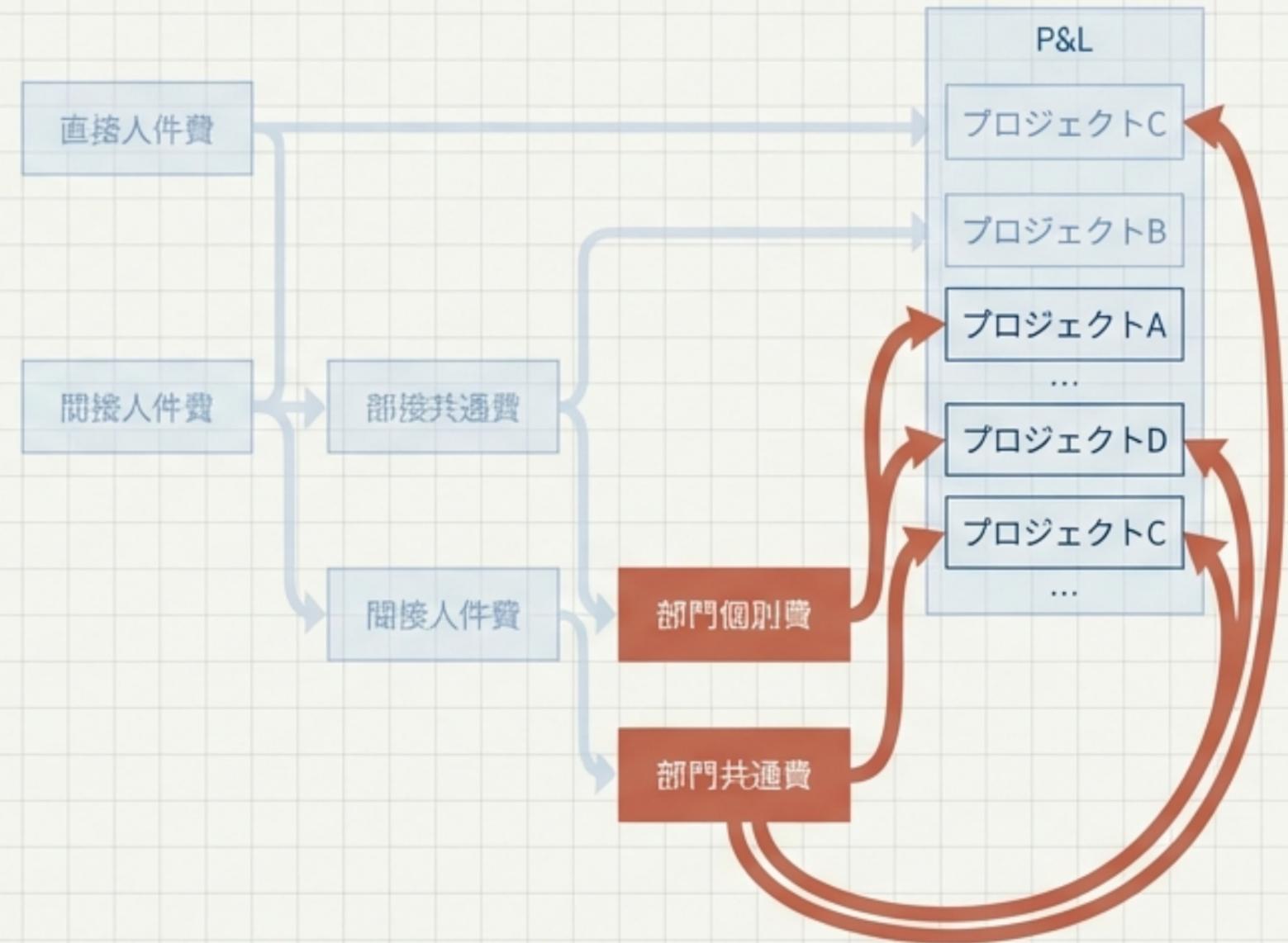


図表34：直接人件費・間接人件費と部門個別費・部門共通費のプロジェクトへの直課・配賦の関係

最終ステップ：部門費の配賦

部門個別費・部門共通費：
これらは最終的に「一定の基準」により部門個別費に配賦、またはプロジェクトに配賦されます。

目的：間接業務のコストも、適切に事業収益と紐づけるため。



図表34：直接人件費・間接人件費と部門個別費・部門共通費のプロジェクトへの直課・配賦の関係

プロジェクト原価計算の重要ポイント



1

時間の区分

直接時間と間接時間を正確に記録する。

2

単価の決定

平均時間単価（標準単価）の採用を検討し、評価のブレを防ぐ。

3

フローの理解

間接費は一度部門費としてプールし、一定基準で配賦する。

正確な原価計算は、プロジェクトの真の収益性を可視化します。